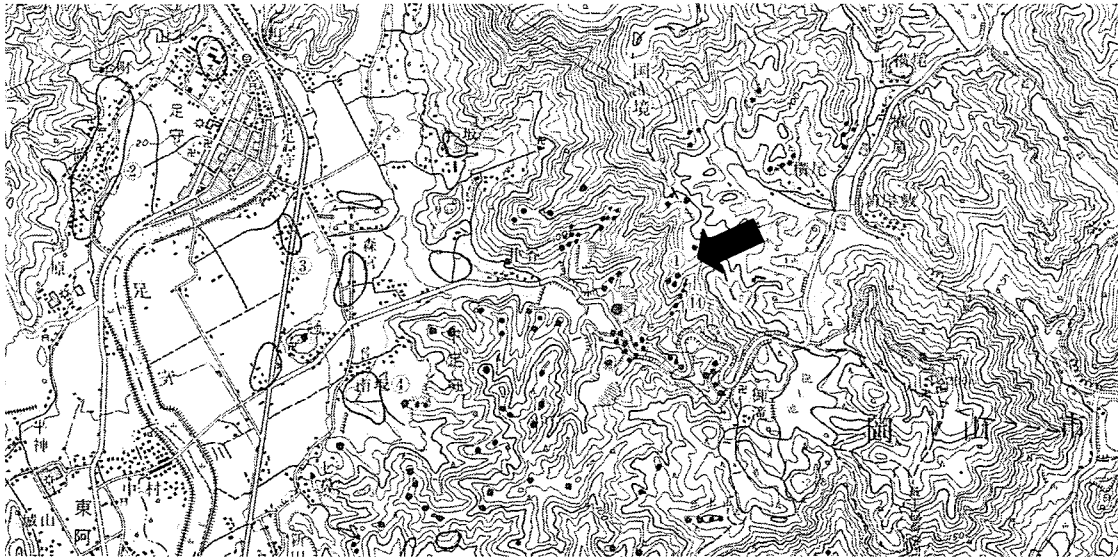


遺跡紹介

長坂古墳群

草原孝典

【遺跡の位置】



S=1/25,000

【遺跡の概要】

長坂古墳群は、岡山市北区下足守に所在した。採土工事に伴って発掘調査された。足守川に向かう細長い谷へ北からのびる尾根上に築かれており、3基の方墳からなる古墳時代前期の小古墳群である。1号墳は、7.4×4.8mの方墳で、中央には2体埋葬した箱式石棺、両脇に特殊器台の転用棺と土器棺が検出された。副葬品は箱式石棺から出土した鉄剣が1本だけであった。特殊器台棺や土器棺に用いられた土器は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのもので、極めて異例ではあるが、それぞれの時期に属する埋葬施設を改葬した結果と考えることが最も合理的であろう。

2号墳は、9.3×7.8mの方墳で、中央西よりで箱式石棺が検出された。副葬品は認められなかった。堀切の底面から供献された土器が出土しており、それらから古墳時代前期後半の時期と考えられる。

3号墳は、1、2号墳とは異なり、尾根斜面部に築かれていた。そのため墳丘の大半が崩落していたが、埋葬主体である箱式石棺が2基、半分ほどではあるが残存していた。いずれも人骨が残っているが、副葬品は認められなかった。

【文献】 草原孝典ほか1999年『長坂古墳群』岡山師教育委員会

【交通】 JR吉備線「足守駅下車」徒歩30分 たゞしすでに消滅している。

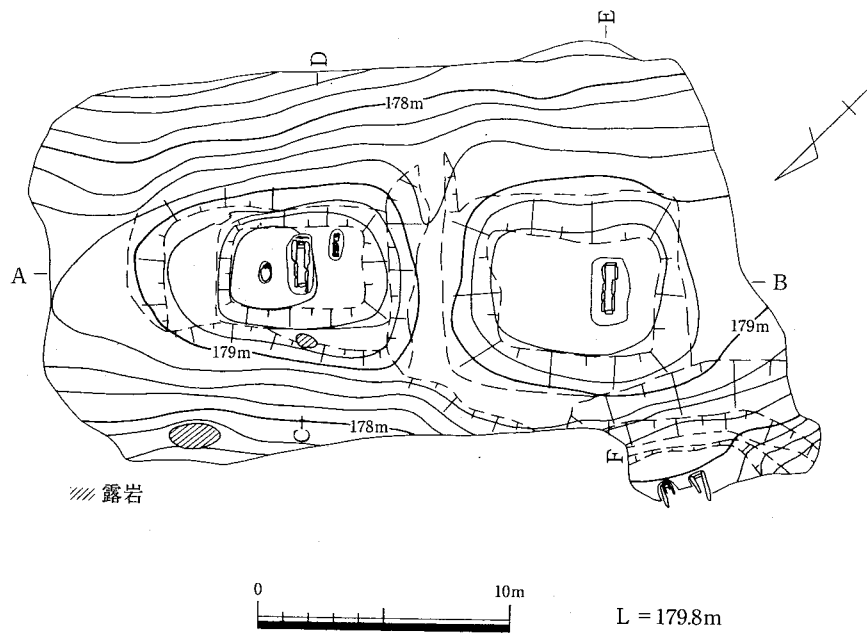


图1 遺構配置図

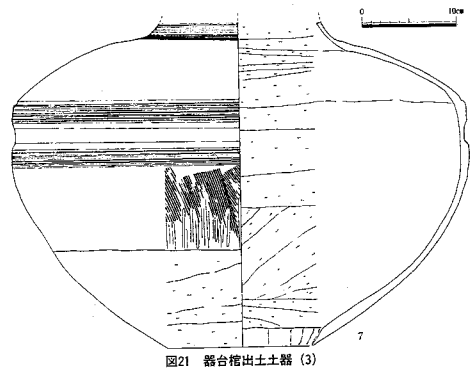
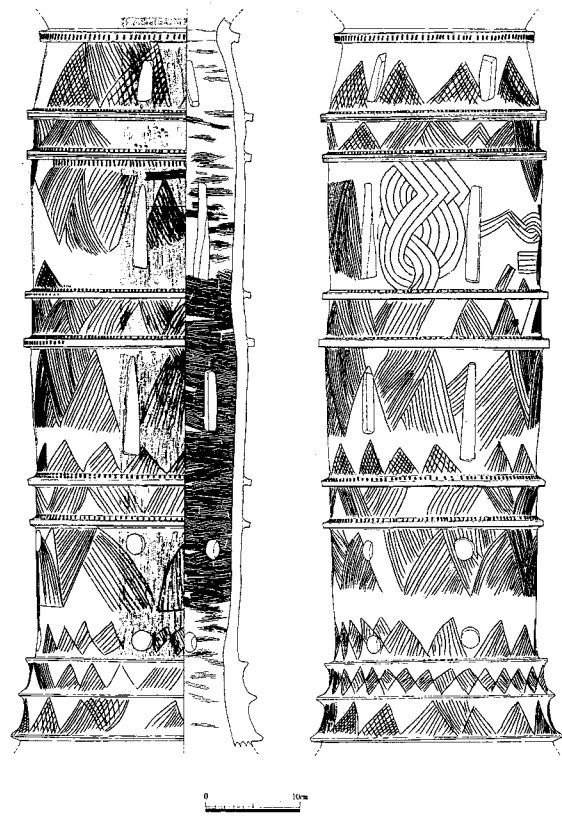


图21 器台棺出土土器 (3)

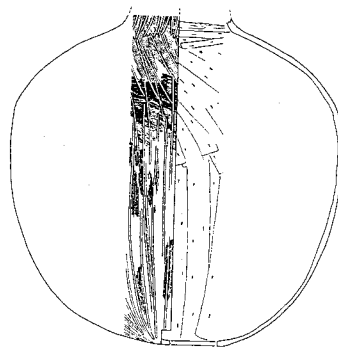


图22 器台棺出土土器 (4)

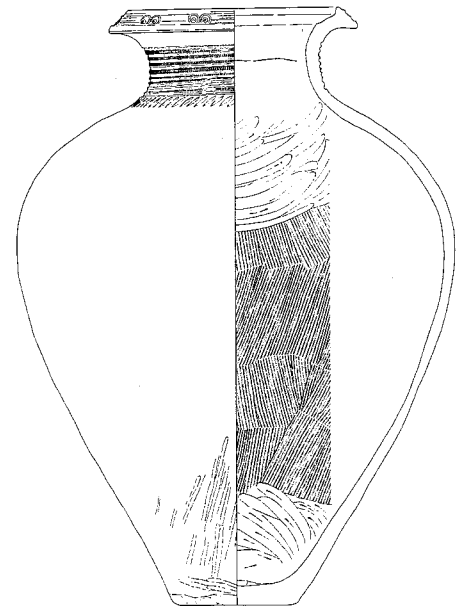


图2 出土遺物

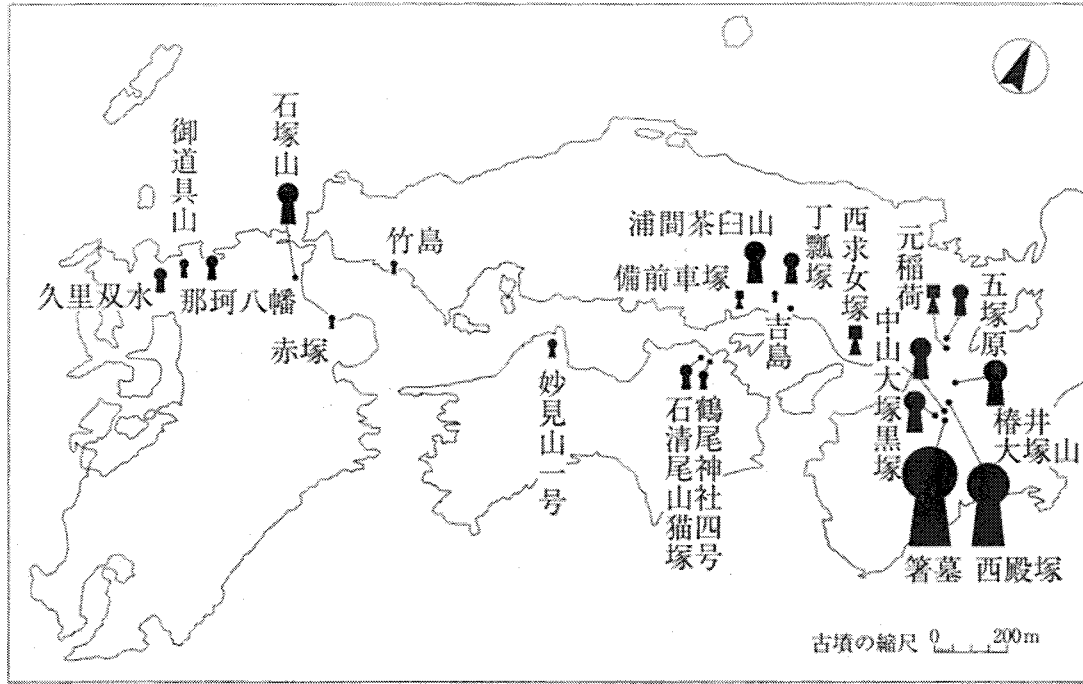


図3 西日本における出現期古墳の分布

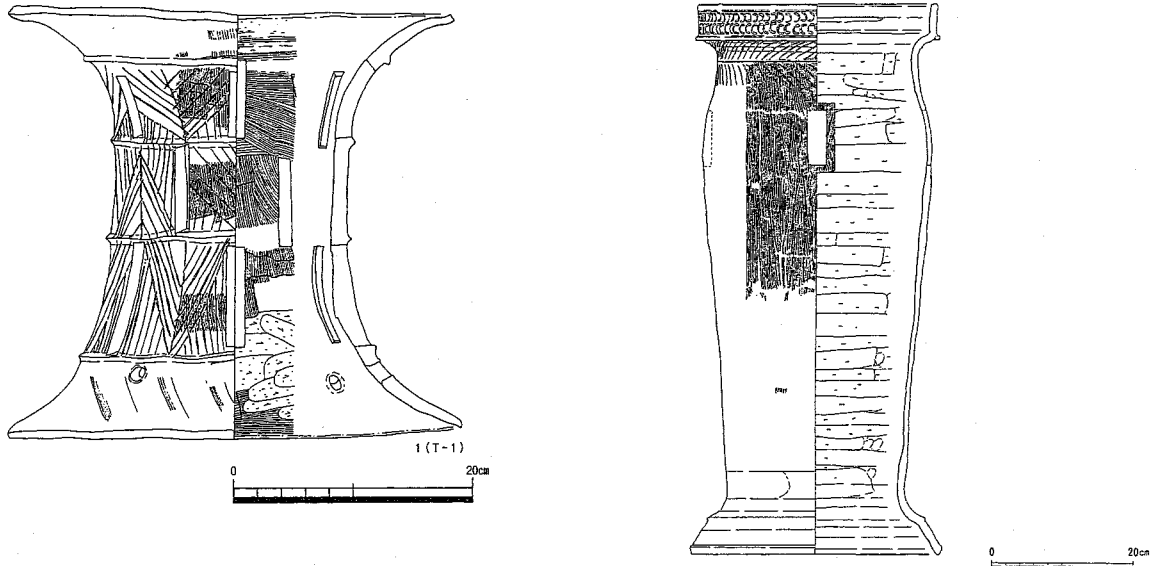


図4 伊予型と山陰型特殊器台